

日交研シリーズ A-808

令和2年度自主研究プロジェクト

「交通インフラストラクチャーの整備と経済活動の空間立地の経済分析」

刊行：2021年6月

交通インフラストラクチャーの整備と経済活動の空間立地の経済分析

An economic analysis of the impacts of transport infrastructure on the location of economic activities

主 査：高橋 孝明（東京大学教授）

Takaaki Takahashi

研究担当者：城所 幸弘（政策研究大学院大学教授）

Yukihiro Kidokoro

要 旨

空港に対する規制政策では、シングルティル(single-till)規制とデュアルティル(dual-till)規制が区別して議論されている。シングルティル規制とは空港の総利潤に対して規制をかける方式であり、デュアルティル規制とは、空港の航空事業のみに規制をかける方式である。シングルティル規制とデュアルティル規制の区分は、空港のみならず、関連事業が重要になっている、鉄道や高速道路でも有用である。

シングルティル規制とデュアルティル規制の下で達成される社会的余剰の水準を比較することは非常に重要であるが、既存文献では統一的な結論を得ていない。本稿では、簡単なモデルを用いてこの点に焦点を当て、以下の結果を得る。シングルティル規制とデュアルティル規制のどちらがより高い社会的余剰を達成するかは2つの条件のみによって決定される。第一の条件は、社会的余剰を最大化した場合の解の下で、規制当局が考慮する利潤（シングルティル規制の下では本業と関連事業の利潤の合計、デュアルティル規制の下では本業の利潤）が正になるか負になるかである。第二の条件は、関連事業からの利潤が正であるか負であるかである。社会的余剰を最大化する場合の被規制企業の総利潤が正（負）のとき、関連事業からの利潤が正であれば、デュアルティル規制（シングルティル規制）は、より高い社会的余剰を達成する。関連事業からの利潤が負であれば、この結果は反対になる。

キーワード：シングルティル規制、デュアルティル規制、社会的余剰、本業財、兼業財、混雑

Keywords: Single-till regulation, Dual-till regulation, Social welfare, Core good, Non-core good, Congestion